

# 令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

## 「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区のエ育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

**1 調査日** 令和8年4月14日（火）

**2 調査対象** 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

### **3 調査内容**

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

# 国語科

## 1、定着状況についての概要

全学年においてほとんどの項目において目標値を上回っており、学習内容は概ね身に付いていると言える。しかし、「書くこと」や「読むこと」において課題が見られる学年もあった。日々の学習活動の中で、書く機会を増やしたり、文章の読み取りを細かく丁寧に行ったりして、継続的に能力を積み重ね、基礎学力の向上を図る。

## 2、各学年における主な課題と課題解決のための方策

|    | 課題                                                                                                                                 | 課題解決のための方策                                                                                                                             |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2年 | 基礎・活用ともに、区平均及び全国平均を上回っている。しかし、「きいたことをもとにはなしをする」において、相手から伝えてほしいと頼まれた内容を整理し、正確に伝えることに課題が見られる。                                        | 聞いた内容を細かい観点で整理する活動を取り入れるとともに、伝える順序や要点を意識して話す場面を設定する。伝言やインタビューなどの活動を通して、相手にわかりやすく正確に伝える力を育成していく。                                        |
| 3年 | 「お礼の手紙を書く」の項目のみ目標値より校内平均が下回っていた。それ以外の項目は、目標値より校内平均が上回っていた。書くことにおいて、記述式になると解答率が低くなる傾向があった。                                          | 基礎的なところは目標値に届いている項目が多いため、基礎を身に付けることは継続して行う。書くことに関しては、日々の授業でノートやワークシートに書く活動を積み重ねる。自分の考えを書く機会を増やし、それを共有、発表していく。                          |
| 4年 | ほとんどの項目で目標値に対し、同程度または上回っているが、「読むこと」については昨年度の結果や区の平均より下回っている。また、文章を書く問題では、他の領域よりも正答率が低く、無回答の児童も多かった。                                | 「読むこと」については、読み取りの方法についてや要旨をとらえる授業の時間を充実させる。また、読書を進めていく。文章を書くことについては、簡単な文章を書くことの時間を増やし、苦手意識をなくしていく。                                     |
| 5年 | 全ての項目において目標値を上回っており、概ね既習内容の定着が見られる。その中で「説明文の内容の読み取り」など、文章を正しく読み取って答える問題は、他の領域と比べて正答率が大きく低下している傾向にある。                               | 文章内容の要旨を捉え、問いの内容と答えの整合性を理解させる。また、対話的な活動を通して自分の考えを深めたりする活動を継続的に取り入れるなど、根拠のある考えを表現できるようにする。                                              |
| 6年 | 全体的に区の平均を上回っている。問題別では「言葉の学習」「物語の内容を読み取る」の内容が一部、区の平均を下回っている。文章の中で文脈に沿った漢字を使うこと、登場人物の心情について描写を基に捉えることに課題が見られる。                       | 物語文の中で、描写を基に登場人物の心情を捉えるために、じっくり文章を読む時間を授業内で設定する。また、交流を通して考えを深めることができるように話し合い活動の時間を増やす。漢字学習については、時間を確保し、丁寧に指導していく。                      |
| 7年 | 基礎的な知識・技能については目標値、区平均と上回っており、概ね定着が見られる。一方で知識を活用して考えをまとめたり、根拠を明確にして記述したりする力に課題が見られる。特に条件に応じて文章を書く問題の正答率が目標値を下回った。                   | 根拠を明確にして考えを表現する学習活動や、対話を通して考えを深める活動、短い記述を継続的に取り入れる活動を行っていく。また、知識を活用する学習場面を設定することで、学力の更なる向上を図っていく。                                      |
| 8年 | すべての項目において区平均、全国平均を上回っているが、領域別の「我が国の言語文化に関する事項」や問題の内容別の「調べたことをもとにレポートを書く」における正答率の低さが目立つ。また、漢字の読み書きにおいては「読む」に比べ「書く」の正答率が低いことが課題となる。 | 設問の意図を正確に把握し、条件にそって自分の考えをわかりやすく伝えることに課題がある。日頃から読み手を意識させ、簡潔で明確な文章を書く練習をし、書くことへの抵抗をなくす指導を要する。「漢字」に関しては、日々の書き取りによる反復学習で定着を図り、さらに意識を高めていく。 |
| 9年 | 基礎・活用ともに、目標値、区平均及び全国平均を上回っている。しかし、問題の内容別正答率を見ると「漢字を書く」において、目標値は上回っているものの、全国及び区の平均と比べて課題が見られる。                                      | 漢字の書き取りに課題があると思われる。定期的な漢字小テストの実施だけでなく、単元のまとまりごとに漢字の書き取りの時間を設けて、漢字力の向上に努めていく。                                                           |

## 3、次年度の数値目標

どの学年も、全ての領域で目標値を上回ることができようにする。

# 社会科

## 1、定着状況についての概要

前期課程では、目標値を超えている領域が多い。基礎的な知識は身に付いているが資料の適切な読み取りとその活用や表現が課題となっている。後期課程でも区や全国の目標値を超えている領域が多い。前期課程と比べ、基礎的な知識の定着を課題としている学年もある。また、問題の形式によって苦手意識が見られ、前期課程と同様に、知識の活用にも課題が見られた。

## 2、各学年における主な課題と課題解決のための方策

|    | 課題                                                                                                                 | 課題解決のための方策                                                                                                 |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4年 | 基礎・活用ともに目標値を上回っている。しかし、区の平均よりは下回っている。内容別で見ると「工場の仕事」や「市の様子の変り変わり」問題では資料の読み取りに課題が見られた。                               | 教師は児童に資料を活用する技能を身に付けさせるために、ねらいを達成する資料を計画的に提示し、基本的な内容や問題点を読み取る時間を十分に与える。                                    |
| 5年 | 基礎と活用はどちらもすべての項目で目標値を超えていた。正答率は5領域中、4領域が高い結果となった。解答形式では記述形式、領域では「伝統や文化、先人の動き」の正答率が低かったが、どちらも区と全国のデータと大きく差はない。      | 資料を活用する力を定着させていく。そのために、問いに合う資料を精選する。複数の資料から矛盾や共通項を気付かせたり、既習事項と関連付けたり、児童が自分の考えをもてるようにする。                    |
| 6年 | 基礎・活用ともに目標値を上回る結果となっており、どの領域も区・全国の平均よりもおおむね上回る結果であった。知識・理解の問題は得意な児童が多いが、情報などの特定の単元の理解の低さや、表現の問題に苦手意識があるという課題も見られた。 | 社会的事象についての知識や理解を思考し表現する経験を増やしていく。理解したことを自身の考えとして発信し、協働的な場面を意図的に作ることで、互いの表現に触れ、内容を精査しより高度な思考へとつなげていく。       |
| 7年 | 基礎・活用ともほとんどの問題で目標値、区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。解答方式で見ると短答で解答する問題で目標値、区・全国平均正答率を下回っているものがあつた。                             | 短答での解答の正答率が低くなっている。ワークやミライシードなどで一問一答の問題に慣れ、知識の定着を図る。また、選択問題に比べて覚えたことを正しく引き出せるように授業中にも知識の定着ができているか確認が必要である。 |
| 8年 | 基礎・活用ともほとんどの問題で目標値、区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。問題の内容で見ると理解する問題で目標値、区・全国平均正答率を下回っているものがあつた。                               | 基礎的な知識問題の正答率が低くなっている。知識を高められるように授業の導入で復習をしたり、その都度反復をしたりと知識の定着ができるように進めていく。                                 |
| 9年 | 基礎・活用ともほとんどの問題で目標値、区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。問題の内容で見ると資料読み取り問題で目標値、区・全国平均正答率を下回っているものがあつた。                             | 資料の読み取りについては基礎的な知識があつてこそ解ける問題なので、授業において振り返りを重点的に行っていく。また、授業の中で資料を読み取る活動を定期的に行っていく。                         |

## 3、次年度の数値目標

どの学年も、全ての領域で目標値を上回ることができようにする。

# 算数・数学科

## 1、定着状況についての概要

全学年で、概ね目標値を上回ることができた。特に基本的な計算については、前期課程から後期課程まで正答率が高く、一貫した指導ができています。一方で、各学年苦手な領域があるため、正答率が目標値を超えられるように復習をしていく。

## 2、各学年における主な課題と課題解決のための方策

|    | 課題                                                                                                                          | 課題解決のための方策                                                                                                                 |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2年 | 全体では区の平均も全国の平均も上回っている。しかし、数と計算領域の中での集合数を理解しているかという問題や図形領域の中での立体の面を写し取って書いた絵を見て、使っている立体を見つける問題に課題が見られた。                      | 具体的な活用場面を想定した活動を行い、学習したことを活用する能力を伸ばす。学習後のまとめでは、学習したことを生かして、身の回りの課題に当てはめながら応用力を伸ばせるよう、学習計画に活用場面を取り入れていく。                    |
| 3年 | 図形問題の理解はできているものの、全体的に全国、区内の平均を下回っている。計算問題では、繰り下がりがある計算問題に課題が見られ、測定の問題では時刻の計算に課題が見られる。                                       | 基礎的な計算能力を伸ばすために計算問題を繰り返し行い、計算能力の土台を固める。また、測定の問題などについては個別指導を行い、つまづきを解消していく。                                                 |
| 4年 | 全体的に区の平均、全国の平均を上回っている。特に「数と計算」ではすべて全国、区内平均を上回っており、定着していることがわかる。一方「図形」の作図問題や「四則計算の意味」を問われている問題では平均値を下回っている。                  | 実測や計算の意味を考える際に、自分のやり方や考え方が見いだせていないことに課題が見られる。やり方や計算の工夫などを友達に説明する機会を増やし自分で活用できる力をつけさせていく。また、作図など実技を伴うものは繰り返し練習して定着させていく。    |
| 5年 | 基礎・活用ともに目標値・区内・全国の平均を上回っている。領域別では「数と計算」「変化と関係」で目標値を大きく上回り、定着が確認できる。一方で、内容別に見ると「いろいろな形」の問題で目標値を下回り、「面積」の問題では目標値と同程度の正答率であった。 | 具体的には、身近にあるもののおよその面積の推測、平行四辺形の作図に課題が見られる。いずれも知識・技能の観点である。定着のために、さまざまな問題解決の経験を積んだり、解答の仕方が適切であったかを確かめたりする機会を確保し、知識・技能の向上を図る。 |
| 6年 | 全ての領域において、正答率が目標値・区内・全国の平均を超えている。特に「変化と関係」については大きく目標値を上回っている一方で、「データの活用」において、各種グラフの値に0が含まれる連続量の平均を求める問題には課題が見られる。           | 今後も継続的な問題練習を継続するとともに、「データの活用」については、正しいデータの見方、扱い方について確認し、計算方法の意味についても理解を深め考える力も深めていく。                                       |
| 7年 | 全体的に正答率が目標値を超えていて、結果は良好である。しかし、グラフの読み取り、単位量あたりの大きさ、百分率など、正答率の低い問題がある。                                                       | 新しい単元の学習をする際に、既習事項の確認や復習をしながら進める。また、問題演習を継続的にを行い、知識・技能の定着を図る。                                                              |
| 8年 | 全体的に正答率が目標値を超えていた。しかし、負の数の減法や球の表面積など、基礎的な知識を問う問題で正答率が目標値を下回ってしまった。一方で、作図やデータの分析への理解度は高かった。                                  | 領域によって学習の定着度に差があるため、幅広く復習をしていく。また、新しい内容を学習する際、関連した知識の復習から始めるなど、毎授業で振り返りをしていく。                                              |
| 9年 | 全体的に正答率が目標値を超え、結果は良好である。一方で、「確率」「データの分布の傾向」の問題で、区の正答率を下回った。                                                                 | 起こりうる事象を表や図に表したり、データの分布を箱ひげ図に表したりした上で、分析考察していく経験を積み重ねていく。                                                                  |

## 3、次年度の数値目標

どの学年も、全ての領域で目標値を上回ることができるようにする。

# 理科

## 1、定着状況についての概要

前期課程では、全ての観点で目標値に対して有意に上回っているか、同程度であった。内容面では「虫眼鏡の使い方」といった技能に課題が見られる傾向がある。今後の学習においても繰り返し使用するものが多いので、学習前に取り立てて復習の機会を設定する必要がある。後期課程では目標値を達成している設問が多いが、「知識・技能」の観点で正答率が目標値を下回る傾向があった。学習内容が知識として定着するよう学習過程を工夫するとともに、関連する単元で適宜復習の機会を設定していく必要がある。

## 2、各学年における主な課題と課題解決のための方策

|    | 課題                                                                                                                                 | 課題解決のための方策                                                                                                                                     |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4年 | 平均正答率は目標値と同程度である。基礎・活用の観点では、活用の観点の値が基礎よりも低いものの、前年を上回っている。内容別に見ると、「身近な自然の観察」「磁石の性質」に課題がある。                                          | 「身近な自然の様子」は虫眼鏡の使い方の正答率が低かった。4年生の「季節と植物」など今後も虫眼鏡を使用する場面が多くあるので、使い方を確認し、実体験の中で定着できるようにする。どの単元でも問題解決の過程を通して学び、実験結果の分析（考察）の経験を積ませていく。              |
| 5年 | 平均正答率は、観点別では「知識・技能」も「思考・判断・表現」も目標値を有意に上回っている。基礎・活用の分類では、基礎は目標値を有意に上回っているが、活用は目標値と同程度である。内容別に見ると、「物の温度と体積」「自然の中の水」の単元で目標値を下回る設問がある。 | 目標値を下回る設問は、共に活用の分類である。冷蔵庫から出しておいたボトルを開けると音がすること、寒い日に窓に水滴がつくことなど、身近な生活の事象を学習内容と関連付けて説明する活動を重視していく。また分かったことを図に表す表現活動を取り入れ、理解を深めさせていく。            |
| 6年 | 平均正答率は、観点別においても、基礎・活用の分類においても目標値を有意に上回っており、大枠では課題は見られない。内容別に見ると、「ふりこのきまり」の単元に目標を有意に下回る設問がある。                                       | 「ふりこのきまり」については、1往復する時間の要因を指摘することができていなかった。ぶらんこなど、生活の中での振り子について復習し、実感をもって理解できるようにする。また6年生2学期の「てこ」の学習を中心とし、自分で実験を計画する場を設定し、自力で問題解決する機会を重視していく。   |
| 7年 | 平均正答率は区全体よりも上回っているものの、短答・記述問題の正答率は目標値に対して下回っている。また、基礎問題や知識技能が目標値に対して下回っていることが多く、その内容に関しては基本的な内容の理解ができていない。                         | 生物・地学について既習事項が知識として定着するように、活動を増やし、共同作業をすることで正しい知識の定着を図る。また、実験の結果・考察などを分析・説明する際に端的にポイントを絞って説明・表現する方法を身に付けさせる。                                   |
| 8年 | 平均正答率は目標値をやや上回っている。観点別ではどれも区や全国平均を上回っているものの、知識・技能のみ目標値より低く、知識・技能の定着に課題がある。「生命」の領域の数値が低い傾向があり、特に動植物の分類についての内容が十分に定着していない。           | 知識・技能の定着に課題があるので、本時の授業に関わる既習事項について復習する時間を設けたり、視覚的な理解を増やしたりすることで、定着を図っていく。また、どの単元でも問題解決の過程を通して学び、実験結果の分析（考察）の経験を積ませていく。                         |
| 9年 | 化学変化でできた化合物の性質について、理解が不足していた。電磁誘導で発生する誘導電流の向きについてあいまいである。顕微鏡の操作手順について十分身に付いていない。                                                   | 鉄と硫黄の化合でできる物質の性質について、実験結果を覚えるだけでなく、原子の組み合わせの変化や単体か化合物かなど、総合的・粒子的な理解につながるよう復習の機会をもつ。電磁誘導についても繰り返し確認問題等で定着を図る。顕微鏡の扱いについては、観察・実験で使用するたびに確認を行っていく。 |

## 3、次年度の数値目標

どの学年も、全ての観点で目標値を上回ることができるようにする。

# 英語科

## 1、定着状況についての概要

どの学年においても、基礎・活用、共に正答率は目標値・区の平均を上回っており、学習内容は概ね身に付いている。ただ学年によっては前年度の平均を下回っているため、学年の課題を見付け、効果的な学習方法を検討する必要がある。4技能をバランスよく伸ばすために、様々な英語表現に触れることや問題形式に慣れることが必要だと思われる。

## 2、各学年における主な課題と課題解決のための方策

|    | 課題                                                                                                                          | 課題解決のための方策                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6年 | 全ての領域に対して、全国・区内・目標値を上回っている。活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を問われる問題では平均を上回っているが、正答率が低い傾向も見られた。                                           | 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を身に付ける学習については、英語を音として耳で聞いたり発音したりする活動を増やしていくことで、読み方を身に付ける機会を増やしていく。                                                                                                                                                                                |
| 7年 | おおむね全国平均を上回っているが、大問13の自分が普段ある曜日に行う日課について書く問題では、唯一0.5点全国平均を下回った。全国平均は上回っているものの、大問2の(1)アルファベットの読み方に関しては、目標値をわずかに下回っている。(0.2点) | <ul style="list-style-type: none"><li>・大問13は、TuesdaysやFridaysなど、毎週行う習慣に関して曜日の後にsを付けることは、Unit3 Part2の学習内容であり、実施日の4月14日の段階で指導していなかったため、授業内で触れた。</li><li>・品川区内の各小学校では、JTEがフォニックスやアルファベットの読み書きの指導をしており、区内出身の生徒には既習事項だが、大文字ブロック体など、既習事項についての復習も今後の7学年の学習活動に取り組む。</li></ul> |
| 8年 | 全国・区平均ともに上回っているが、前年度平均よりは下回っている。特に、場面に応じて書く問題や、与えられた情報に基づいて書く問題に対して正答率が低い結果となっている。                                          | 表現や語彙力、基本的な文法について課題が見られるため、授業では新出事項に加え、繰り返し既習内容の復習を行い、英作文の取り組みも継続しつつ学習内容の定着を目指す。                                                                                                                                                                                      |
| 9年 | 全国・区平均ともに上回っているが、対話の流れを聞いたり読んだりし、流れに沿った英文を書く点において、正答率が低い結果が見られる。                                                            | <ul style="list-style-type: none"><li>・授業内において、ペアやグループワークを増やし、積極的に英語でのやり取りを増やす。</li><li>・自分の意見を述べる際に使う適切な表現や語彙、文法力に課題が見られるようなので、繰り返し既習内容の復習を行ったり、自己で添削を行ったりして、学習内容の定着・英語での自己表現力を高めていく。</li></ul>                                                                      |

## 3、次年度の数値目標

どの学年も、全ての領域で目標値を上回ることができるようにする。